

創刊記念 座談会

これからの地域医療にむけて



学校法人兵庫医科大学 理事長

新家 荘平（しんか そうへい）

昭和5年、大阪府生まれ、大阪大学医学部卒業。大阪大学医学部助教授を経て、昭和51年兵庫医科大学教授（免疫学・医動物学）、平成6年学長、平成13年副理事長、平成15年から現職。



兵庫医科大学 学長

波田 壽一（はだ としかず）

昭和16年、島根県生まれ、大阪大学医学部卒業。兵庫医科大学助教授を経て、平成9年臨床教授、平成11年教授（総合内科学）、平成16年から現職。



兵庫医科大学病院 病院長

太城 力良（たしろ ちから）

昭和22年、栃木県生まれ、大阪大学医学部卒業。大阪大学医学部助教授を経て、平成6年兵庫医科大学教授（麻酔学）、平成16年兵庫医科大学病院副院長、平成21年から現職。



兵庫医科大学篠山病院 病院長

福田 能啓（ふくだ よしひろ）

昭和24年、東京都生まれ、弘前大学医学部卒業。兵庫医科大学助教授を経て、平成18年兵庫医科大学病院臨床栄養部部長・臨床教授、平成20年から兵庫医科大学地域総合医療学教授・現職。

1972年、「社会の福祉への奉仕、人間への深い愛、人間への幅の広い科学的理解」を建学の精神として設立した兵庫医科大学および同病院は、人間性豊かな良医の育成の場として、世界に通じる医学研究の拠点として、また、高度先進医療を担う特定機能病院として、着実な発展を遂げてきた。現在では年間約30万人の入院患者さん（うち手術数8000件超）および約60万人の外来患者さんの診療を行っている。34の診療部と、救命救急センター、がんセンター、肝疾患センター、PETセンター、健診センター、IBD（炎症性腸疾患）センターなど26の中央診療施設に細分化してきめ細かな診療体制を築き、標準的な治療はもちろん、高度で先進的な医療も提供している。

災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院や肝疾患診療連携拠点病院など国や兵庫県から数々の指定を受け、阪神・西宮地域の医療の中心的役割を担い、大学病院として将来の医師を育てる兵庫医科大学と同病院のトップに、地域における大学および病院の役割や、地域連携について話を聞いた。



兵庫医科大学の地域連携

新家庭理事長（以下、新家）／医療は、もはや一人の医者に任せるという時代ではなく、複数の医療従事者が協力して一人の患者さんに関わっていくチーム医療の時代です。われわれが目指すチーム医療は、内科、外科、放射線科などそれぞれ別の専門を持つ医師、それから看護師、薬剤師、リハビリテーションなどの技術者、またそれ以外に、臨床心理士、ソーシャルワーカーなどさまざまな専門スタッフが一つとなつて医療を行うこと。そこにはもちろん、スタッフだけでなく、患者さんとそのご家族も入っています。そしてさらには、社会“もチームの一員として医療に携わるべきだと考えています。そのような意味で、行政や地域の医療機関などとの連携が非常に重要になつてきていると言えます。

太城病院長（以下、太城）／兵庫医科大学病院の患者さんの約半分は、西宮市と尼崎市にお住まいの方です。当院は地域に密着した基

医師国家試験合格率 100%

波田／医師国家試験の合格率が100%となつた要因には、医師国家試験を意識した各科の試験が非常に良い問題になつていたということ。それからもう一つは、もちろん学生がよく勉強してくれたということです。平成19年度から各科の試験の合格基準を変えたことや、医学教育センターでの学習支援、客員教授の指導、試験前の合宿などが精神的にも良い影響を与え、これらの総和が良い結果を導いたのではないかと考えています。

新家／学長をはじめ、教職員の意識の高さと学生の努力のおかげですね。

波田／学生も含めて士気が高まっているというか、心意気が変わつたと思います。今後は数字的なことだけがアピールされるのではなくて、「兵庫医科大学出身の医師は、立派な医師が多い」と評価されるような教育・指導を続けて行かなければと考えています。

幹病院として、この地域の他の施設ではできないことはすべて当院で行うべきだと思っています。

現在、地域総合・相談センターを窓口として、地域の医療機関から患者さんをご紹介いただく紹介率が50%を超えています。逆に、治療を終えた後にその後の治療をお願いする逆紹介率も30%を超え、地域連携が大変進んできていると感じています。一方で、救急や周産期、小児科など、地域の各病院が独立して医療を行うことで、それぞれがたいへんな思いをしている現状があります。地域の病院ときちんとした当番制を作ったり、あるいはERなど二次・三次救急についてどのように進めていくのかというように進めていくのみなで考え、地域の医療をさらに良くしていかなければいけない。そのような考えで、今年6月、「兵庫医科大学連携病院の会」を発足しました。これは、人事の交流などにより兵庫医科大学と連携病院が連携を強め、それぞれに在籍する医師の診療技術の向上や学生教育、地域医療の充実を目的としています。親だけでなく地域全体で子育てをするようなイメージで、

地域の方々との良い関係を

そのためにも、来年からは少し入試の方法を多様化させ、医師不足の診療科を志望する学生には奨学金を出したり特待生制度を設けているなど、やる気のある、志の高い学生を支援したいと考えています。また、各学年での到達目標をはっきりさせるシステムを作り、学生それぞれが自分に自信を持つて、胸を張つて卒業できるようにしたい。それが最終的には立派な医師を育てることにもつながるのではないかと考えています。

福田／兵庫医科大学の関連病院として、兵庫県篠山市に篠山病院がありますが、現在、隣接地に新しい病院を建設中です。篠山市は高齢者の割合が多いため、リハビリテーションなどを含めた総合的な医療が求められています。篠山病院では、本院に先駆けてERの設置を計画しており、とにかく篠山市の救急だけでなくすべて受け入れられる体制を整えたいと考えています。

地域の中で病院が長く存続し、

地域社会全体で医療人を育てていくという取り組みです。8月1日現在、119の病院に入会していただいております。今後、積極的に連携を深めていくことを確認し合いました。

良医とは何か

太城／医療人を育てると一口に言っても、どのような医療人を育てればよいのでしょうか。

私は、患者さんから信頼されるのが良い医師なのだろうと思います。信頼されるために必要なのは、患者さんのことをどれだけ思っているか、ということ。これは言葉にしろなくても、患者さんには自然に伝わるものだと思います。ただし、必ずしも“なんでも自分が治す！”という態度が良いとも限りません。患者さんの状態をきちんと理解して、自然治癒力も見越したうえで治療するようなやり方が必要なのではないかと思っています。

福田篠山病院長（以下、福田）／良医というのは、評価する側にも

よります。一般の患者さんから見れば、簡単な病気でも丁寧に治療してくれるお医者さんは、医療レベルはそれほど高くなくても良医でしょう。しかし、難しい病気を抱えている患者さんには、簡単な病気しか治療できないお医者さんは良医には見えない場合もあります。医師仲間から見ても、医療レベルが非常に高いドクターが良医に見えることもあります。ですから、私は医療レベルというよりも、患者さんと本気で向き合える医師が良医だろうと思います。

波田学長（以下、波田）／私は、

患者さんに安心を与えることができる医師のことだと思っています。そのためには、基本的な知識や技術は必須ですが、患者さんから信頼され、尊敬されるような人格あるいは倫理感が必要です。本学の教育目標は「人間味に溢れ、患者さんのことを第一義的に考え、幅広い教養と高い倫理観を持ち、且つ基本的な医学知識、医療技術を修得した良医の育成をすること」です。中でも忘れてはならないのは「思いやりの心」だと思います。兵庫医科大学の学生にこれらを身

に付けさせるのが、非常に大事だと考えています。

新家／その通りです。今年、本学では医師国家試験の合格率が100%となりました。知識・技術についての教育がうまくいっているということだと思います。これは本当に嬉しいことです。しかしながら、優しさや思いやりの心を教えるのはとても難しい。口で言ってもしかたがない。われわれの背中教えるしかありません。私の夢は、国家試験合格率100%が、「社会が認めるような良医100%」になることです。



質の高い医療を提供するためには、患者さんや地域の人たちの協力が不可欠です。篠山では、地域のみなさんも非常に協力的で、ポリクリ（医療実習）の学生さんが来たときは、全員が直腸診の実習を了解していただいています。これは大変ありがたいことです。地域の人たちに医療へ協力してもらうためには、やはり不安を取り除いてあげることが大切だと感じています。

篠山病院は、今年4月に総合・家庭医療部門を立ち上げ、患者さんや地域での医療活動に真摯に向き合うことで、患者さんの安心につなげていきたいと考えています。



兵庫医科大学篠山病院 平成22年5月完成予定

太城／兵庫医科大学病院は大学病院ですから、良医を育てる役割を、来院される患者さん自身にも担っていただいています。しかし最近、学生が患者さんの診療行為に手出しすること、特に患者さんの体に触れることに關して、抵抗をお持った方も多くなっています。研修医に關しても、きちんと研修を終えた医師に診てほしいと言われる方が多いようです。しかし、患者さんの協力なくして医師は育ちません。社会が良医を育てるという意識で、ぜひとも協力をお願いしたいです。

また、本院では現在、十数名の方がボランティアで病院を支援してくださっていますが、わたしたちが地域に貢献することで、このような方がもっと増えていくような病院にしていかなければいけません。寄付についてもそうですが、地域のみなさんに「兵庫医科大学病院を盛り立てていく」と思っていたただくためにも、われわれは誠心誠意、安全で安心な、患者さんに満足していただける医療を続けていくように思っています。

今後、さらに患者さんに満足して頂くために、教職員間のコミュ

ニケーションをより向上させ、病院全体が一つの有機体として機能できる体制を目指していきます。また、患者さんご自身が、自分の病気や治療の内容を十分に理解して積極的に医療に協同参画していただけるように、患者さんと教職員との良好なコミュニケーションを達成し、患者さんの思いや他院で受けてこられた治療内容などをきちんと把握できるシステムの充実に努めたいと思っています。

新家／これからは医療はどんどん発展していきます。レベルの高い診断や治療はもちろんですが、やはり病気にならないための予防が大切です。われわれは、そこにももっともつと力を注いでいかなければならない。これはいよいよ当院だけの力では無理な話です。患者さんも含め、地域とともに取り組んでいかなければいけないと思います。

日本の最先端の医療、地域の中での医療、そしてそれを担う良医を育てる病院として、これからもさらに地域のみなさんの理解と協力をお願いしながら、さまざまな取り組みを進めていきましょう。